

17.07.31

総会後の同期会

日時：2017年7月30日（日）17：30～20：00

場所：門前中町「はなぶさ」

参加者：守永・村川・金川・小西・吉川・坪田・近藤・山田・増井・時田・増田

今年の旭陵会東京支部総会は例年と違って日曜日の昼に開催されたので、我々42期同期会も日曜休業の「はなぶさ」をパパさんママさんに無理矢理頼み込み開店してもらい、同日の夕方に開催。日曜と云う事で参加者はいつもの会より少なく上記11名。

特筆すべきは増井の参加、何と下関からの参加、同日20：30の飛行機で帰郷の強行軍、わざわざ来てくれて嬉しいねえ、これも幹事の人徳か。

残念なのは今回は向洋中出身者がゼロ、常連西村はネットを賑わしているが停学中。

上記のうち守永・小西・吉川・増井の4君は42期を代表して総会にも出席、お疲れ様でした。（多少は出席しないと後輩の当番幹事に悪いし、他の期に格好つかない）

定刻にはほぼ全員揃い、楽しい宴スタート、誰か知らんが数名が順に乾杯の音頭、例によって挨拶なんぞ無し、いつもの無礼講、純平は早くも見境なくからみ始める。

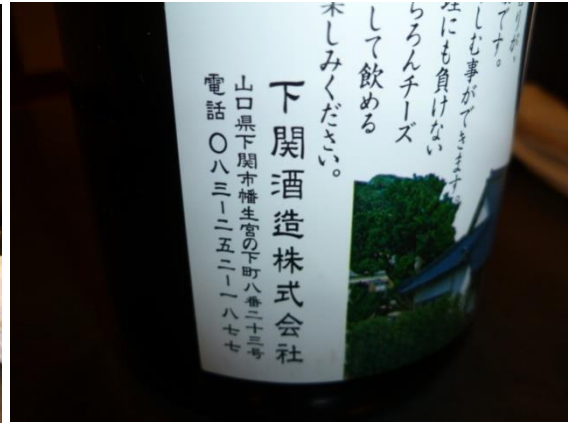


左写真は持ち込んだ品々、左端は「寒北斗酒造」という名だが福岡の酒蔵、その隣のラッピングしてある小さいのは「獺祭」、共に守永提供。

中央の大吟醸は何と「下関酒造」、スカイツリー近くのスーパーで純平の嫁（ご存じトミさん）が見つけた差し入れてくれた、増井に聞くと武久の方にあるらしい、よく東京

の下町スーパーで売ってたものだ。その隣の箱入りは長野の地酒で度数が20度、その横と手前はわさび漬に野沢菜、共に純平のアルプス土産。

あと店から白ワイン1本、これは東京の「深川ワイナリー」で作っているとの事、東京には3か所ワイナリーがあるらしい。原料となる葡萄は他県から持って来るとの事、東京では葡萄畑なんて無理だろうから。「消費地が近いから防腐剤を使って無く新鮮で美味しい」とママが不思議な説明をした。まあシャルドネのテーブルワインと思えばいいでしょう。



山口県の酒といたら「東洋美人」とか「五橋」とか「瀬祭」なんか幅を利かせてるけど下関にも酒蔵あったんだねえ。(調べたら「関娘」の会社だった)

いつものようにそれぞれが勝手に喋りはじめ統制が取れないことこの上ないが、癌の大家山田の話はみんな聞いていた、癌センターでの個室は最低で1日 33,000 円で、部屋が無くそこに1週間入ったとか、首に穴が空いたまま過ごす苦勞とか。



負けじと増井は、昔は温泉を断られたとか（今はOKらしい）、坪田は俺も癌だと割り込み、この3人をこれからトムクルーズとは程遠いが「西高のトップガン」と呼ぼう。(左写真)

病気には縁が無い純平が、癌3人衆を無神経にオチョコリ茶化すから、温厚な山田が「癌よりも熊のほうが痛いぞ」と言い出す。

そうこう騒いでいるうちにゴルゴ14が仕留めた鹿・猪料理が出て来た。

下左が鹿で中華風か和風か解らんが肉が柔らかい、味付けがいい、美味い。

下右が猪、鹿に比べると肉が固い、噛み切るのに苦勞したが獣肉って感じがする。



いろんな所に電話するが誰も出ない、我々が飲み会やってる時の電話には出ないというのがかなり浸透している、長年酔っぱらって電話し続けた純平のせいだ。

そうこうしてる内に向田のとしこママから電話が入る、栄チャンが居ないから電話したと、この言い草がいいね。ほぼ全員と話す。

70 越えると疲れも早い、7時半には中締め、8時すぎには解散。

但し、飲んでるからこの時間は定かではない、ただ家に帰ったら「今日は早いネ」と言われた。

旧友とワイワイ話す、楽しいねェ。楽しかった、またやろう！！



宴たけなわ



はなぶさ玄関で

(7/31 仙人記 文中順敬称略)